

平成30年12月定例会の概要

平成30年12月定例会は、12月6日から12月26日まで、21日間の会期で開きました。

今期定例会初日には市長から提出された議案の上程、説明が行われ、引き続き、9月定例会から継続審査となっていた平成29年度島原市一般会計歳入歳出決算の委員会審査結果報告を受け、決算を認定しました。

市政一般質問には16名、関連質問には1名の議員が立ち、市政全般にわたり、市長をはじめとする執行機関と活発な議論が交わされました。

最終日には、市長提出の10議案を可決し、閉会しました。

市政一般質問の要旨は3ページから12ページ、議決結果は12ページ、委員会審査の概要は13ページから17ページに記載しております。

総務大臣感謝状受賞

東京都で開催された平成30年度総務大臣感謝状贈呈式において、馬場勝郎議員、松井大助議員への議員在職35年以上の感謝状の贈呈がありました。

去る12月定例会本会議の冒頭、議場にて感謝状の伝達を行いました。



馬場 勝郎 議員



松井 大助 議員

～議会一口メモ～

○決算の仕組み

予算に基づいて執行された結果を決算といいます。4月1日から翌年3月31日までを「会計年度」といい、原則として予算はこの1年間に限り執行できます。決算は、この1年間に市に入ったお金と、市が使ったお金の実績を集計したもので、自治体の基礎的な財政指標を算出するデータでもあります。

会計年度が終わると決算をし、監査委員の審査を受け、市議会の承認を得る必要があります。決算の審議は、予算執行の実績を明らかにして翌年度の予算編成や行財政運営の改善に役立てる意義があります。